

瀬戸内海巨石文化圏(仮説)
＝磐座文明

瀬戸内海巨石文化圏(仮説)



・福山市の立岩(メンヒル)。
人工的な構造を確認。

・尾道3山の磐座と向島の岩屋山の
太陽軌道が一致(冬至、夏至)。
※尾道大学の調査。

・鷺ガ巣海岸のカサネ石
雨水(霜降)の太陽軌道と一致する
ことを確認。

・松山・白石の鼻巨石群
石組の配置・形状が二至二分の
太陽軌道と一致することを確認

・生名島の立石山のメンヒル
春分・秋分の朝日に一致

・積善山の妙見メンヒル
ドルメン(岩屋)上の構造であるこ
とを確認。

・宝股山の石神石
高度な石造技術が使われているこ
とを確認

瀬戸内海地方に天体観測に長けた高度な石造技術を持った集団
(文化圏)があったことはほぼ確実であると推定される。

文明の定義

「文明」は、既存の多くの「文化」のサブ・システムを包含し、「文化」に対していっそう広域的なネットワークを形成し、より広い範囲に普遍的に広がっているものであり、大規模で高度な組織化、制度化、統合化、精緻化が行われているものである(Wikipedia)。

磐座文明（瀬戸内海巨石文化）の特徴

- 太陽（天体）に非常な興味をもっている。
（太陽信仰であり、高度な天体観測技術）
- 巨大な石を運搬し加工し、組み上げることができる高度な設計、構築することができた技術者を有する組織的な社会
（高度な石造技術）
- 岩屋構造を特徴とした石造技術
（ドルメン＝支石墓・テーブル石と明らかに違う日本独特の構造）

（狭義の磐座：Wiki）

磐座（いわくら）とは、古神道における、岩に対する信仰のこと。あるいは、信仰の対象となる岩そのもののこと。（自然、人工を問わないが多くは自然のもの。篠澤注）

（広義の磐座：イワクラ学会）

イワクラ（磐座）学会は、巨石研究者または愛好者を主体として設立しました。

主目的は巨石構築物一般を「イワクラ」と呼び、国際用語として世界に流通させる事を目的とします。

（磐座文明での磐座の定義）

何らかの目的を持って、設計、加工、構築、運搬のいずれかの人為的な作業を伴った巨石構築物。石垣は除く。）

(参考: 巨石の運搬方法)

●徳川大阪城の石垣に使われている巨石(400年前)

1. 蛸石(130トン: 岡山県犬島)
2. 肥後石(120トン: 香川県小豆島)
3. 振袖石(120トン: 岡山県犬島)
4. 見付け石(108トン: 香川県小豆島)

●ストーンヘンジ(4500年前: 英国) 最大約50トンの石を250km運んだ。

「白石の鼻」の完全な解明にはオール愛媛の知の結集が必要！

なぜなら考古学だけでもダメで、地質学、天文学、民俗学(伝承)、歴史学(古文)、など多角的な観点から考察をしていく必要があります。

フォーメーション(案)

地域の他組織等

ターナ島を守る会

勝岡神社

高浜公民館

伊予史談会

・地域の伝承の調査・研究
・地域での保全・利活用の検討

学術調査
・岩石の調査
(残留磁化測定など)

早急に自然の造形か、人工物の可能性が高いか調査する必要！

学術機関

尾道大学

兵庫県立大学

県外の専門研究機関

イワクラ学会
(京都造形大学教授 渡辺会長)

NPO古代遺跡研究所
(元中央大学教授 中島所長)

岐阜金山巨石群調査資料室

足摺トオルマの夕日実行委員会

NPO 海底遺跡研究会
(元琉球大学教授 木村会長)

テラ・インフォメーション・エンジニアリング
(渡邊廣勝氏)

協力

協力

協力

協力・アドバイズ

松山・白石の鼻巨石群調査委員会
5名(理事)
※サポーター約10名

- ①調査研究、情報発信
- ②地域での利活用の検討
- ③文化財としての保護の提言

協力関係にある組織

今後協力依頼を行なう組織

学術調査
・矢穴(近世史)の調査
・文化財保護としての検討
・観光等地域活性化の検討
etc

自治体

松山市
・教育委員会(文化財保護課)
・松山市考古館
etc

愛媛県
・教育委員会
・埋蔵文化財センター
etc